

2月3日に開いた第2回呼びかけ人会が地元新聞二紙に早速報道されました

庄内日報

The Shonai Nippo

2012年(平成24年)2月5日(日曜日)

功績を後世へ

「ワッパ騒動」指導者・自由民権運動家

森藤右衛門 顕彰し歴史学ぶ 酒田

酒田市出身の自由民権運動家「ワッパ騒動」の指導者として活躍した森藤右衛門(1842-85年)を顕彰する会の設立に向けた「呼びかけ人会」(関口修会長)が3日、市交流ひろばで開かれた。来月28日開催の顕彰する会の設立総会で提案する会則や事業計画、役員候補者などの案を了承。広く賛同者を募り、藤右衛門の命日である9月16日を目標に顕彰碑の建立を目指すことにした。

酒田市の出身の自由民権運動家「ワッパ騒動」の指導者として活躍した森藤右衛門(1842-85年)を顕彰する会の設立に向けた「呼びかけ人会」(関口修会長)が3日、市交流ひろばで開かれた。来月28日開催の顕彰する会の設立総会で提案する会則や事業計画、役員候補者などの案を了承。広く賛同者を募り、藤右衛門の命日である9月16日を目標に顕彰碑の建立を目指すことにした。

生誕170年 9月に碑建立目指す

この日は有志約30人が出席。関口会長はあいさつで、藤右衛門が一揆逮捕、投獄の繰り返しだった当時の運動を陳情、訴訟という近代的な活動に変えたことや、自由民権運動の先駆けとして板垣退助と並び称され全国的に高く評価されているものの地元ではあまり知られていないことを説明した上で、「今年は藤右衛門生誕170年。この機会を逃さず、まずは誕生日の3月28日に「顕彰する会」を立ち上げる。そして顕彰碑を建立し、命日の9月16日に除幕式

「ワッパ騒動」の指導者として活躍した森藤右衛門(1842-85年)を顕彰する会の設立に向けた「呼びかけ人会」(関口修会長)が3日、市交流ひろばで開かれた。来月28日開催の顕彰する会の設立総会で提案する会則や事業計画、役員候補者などの案を了承。広く賛同者を募り、藤右衛門の命日である9月16日を目標に顕彰碑の建立を目指すことにした。



「森藤右衛門を顕彰する会」の設立に向け「呼びかけ人会」が開かれた

を募り、一人でも多くの会員獲得に努めることを確認した。

設立総会は来月28日午後1時半から、市総合文化センターで開催する。

めている。

ワッパ騒動で藤右衛門は、武力に頼らない裁判闘争を展開。1878年には農民側に総額6万30000円を支払う一部勝訴の判決を勝ち取った。その後、国会開設運動に参画して庄内初の政治結社「尽性社」を創設。81年、39歳で酒田戸長(現在の酒田市長)選挙で圧勝。84年には県議に当選したが翌年、山形市中で病死し、酒田・大信寺に葬られた。

ワッパ騒動 明治政府は1872年、租税をコメの代わりにお金で納める石代納を許可。しかし、当時の第二次酒田県は布告を無視し農民にコメで納めさせ、米価高騰を利用して売却し巨額の差益を得ていた。これに農民が反発。一部の士族・商人も加わり74年、1万数千人が亀ヶ崎城址(現酒田東高)にあった酒田県庁に押し掛け、庄内全体を巻き込む一揆へ。納め過ぎた税は農民1人当

たりワッパ(曲げ物の弁当箱)1杯分に当たるとされたため、「ワッパ騒動」と言われるようになった。

森藤右衛門は江戸後期の天保13年、酒・しょう油醸造業の唐仁屋の次男として誕生。家は代々、酒田三十六

衆を務めており、「酒田の政治の変化を最前線で認識できた」(三原公益大教授)。学才があり、明治政府

下の第一次酒田県(1869-70年)時代に郷学校・学而館の教師を務

ワッパ騒動指導の自由民権運動家

森藤右衛門 功績後世に

酒田

170生誕 「顕彰する会」設立へ

明治初期の自由民権運動指導者で、庄内で巻き起こった農民蜂起運動「ワッパ騒動」を指導した酒田出身の森藤右衛門（もり・とうえもん）の功績を後世に残そうと、地元有志が「顕彰する会」の設立準備を進めている。生誕170年に当たる3月28日の設立を目指し、呼び掛け人会が3日、酒田市交流ひろばで開かれた。

森は1842（天保13）年、現在の酒田市で酒造家の次男として誕生。庄内南部の農民が租税の過納分の返還を求めて蜂起したワッパ騒動を指導し、政府への

陳情や訴訟運動を続け、農民側の勝訴を勝ち取った。その後、庄内初の政治結社「尽性社」を創設して自由民権運動を展開。1888（明治14）年に酒田町戸長（現在の市長）、84年に県議に当選したが、翌年9月に山形で病死した。こうした功績で「西の板垣退助、東の森藤右衛門」とたたえられ、79年発行の「民権自

植木枝盛著の「民権自由論」（1879年刊）の表紙に描かれた森藤右衛門（左）。上段中央が福沢諭吉、右は板垣退助、下段は佐倉宗五郎



Q ワッパ騒動 1887年3（明治6）年、酒田県の下級役人らが県政の横暴を司法省に訴えたことに端を発し、これに農民が不当に取り立てられた税の返還を訴え、農民一揆に発展した。過納分は農家1人につきワッパ（まげ物の弁当箱）1杯分に当たるとされ「ワッパ騒動」と称された。森藤右衛門の指導で法廷闘争に転じ、6年目に農民側の一部勝訴の判決が下った。

「由論」の表紙絵にも掲載されている。顕彰する会は、市民にあまり知られていない森の功績に光を当てて顕彰し、取り組みを通じ郷土の歴史を学ぶことが目的。会設立後に浄財を募り、酒田市内のゆかりの地に顕彰碑を建てる。呼び掛け会では会則、設立趣意書、事業計画の各案、役員候補などを決め、三原容子東北公益文科大教授が講演した。

呼び掛け人会の関口修代表は「多くの皆さんの賛同を得て生誕170年の年に顕彰する会を設立したい」と語った。